

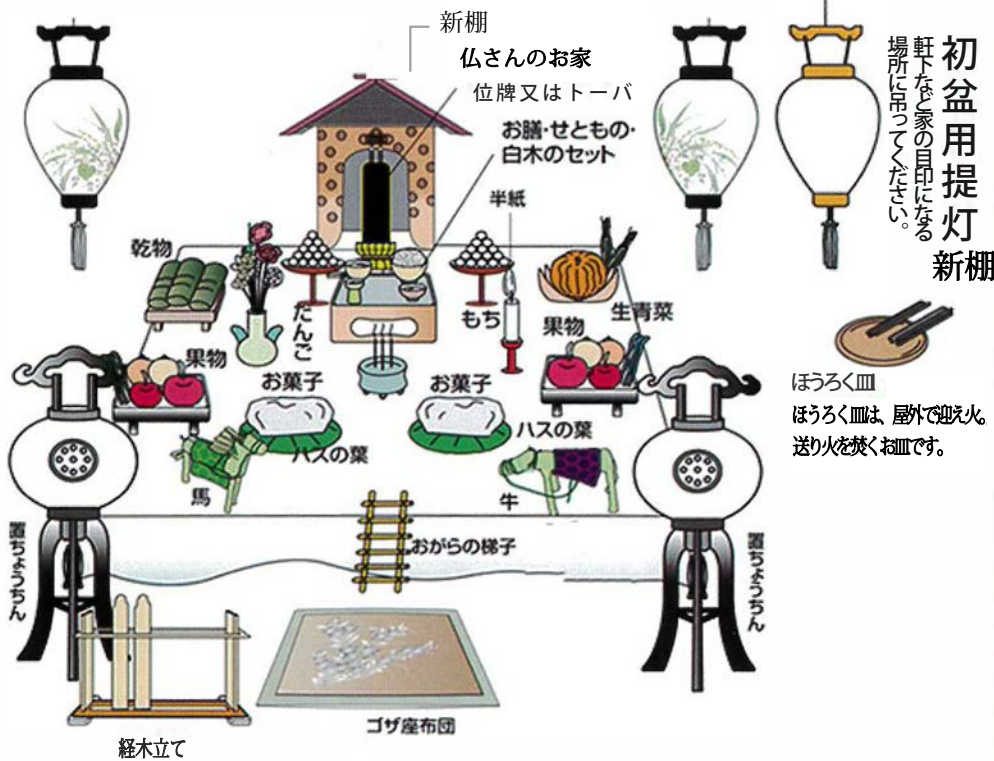
# 新盆 (初盆) の迎え方 ご案内



にいほん はつほん  
新盆 (初盆) とは

亡くなられてから四十九日の忌明けに迎える初めてのお盆供養のことを言います。  
故人の霊が迷わず帰ってこられるように、軒先や仏間に新盆用の白張提灯を吊して案内します。  
新盆 (初盆) を迎える家族は身内や親しい方々を招いて僧侶にお経をあげてもらい盛大に供養します。  
※四十九日の忌明け前にお盆を迎える場合の新盆供養は翌年になります。

## 「一般的な家庭でのお飾りをご紹介」



初盆用提灯  
新棚  
軒下を家の目印にする  
場所に吊ってください。

ほうろく皿  
ほうろく皿は、屋外で迎え火、送り火を焚くお皿です。



〈お膳なし〉  
大 ¥12,500 小 ¥10,000  
〈お膳あり〉  
大 ¥16,600 小 ¥14,100



お膳セット (せともの) ¥4,100



迎え火、送り火用  
焙烙 (ほうろく) 皿

※地域によってお祀り形式は多少異なります。

### ハスの葉とお供え

ハスの葉を敷いて、季節の野菜や果物を盛ってお供えします。

### お箸一膳・小碗・小皿・お水

毎食の家族と同じ食事を少々とお水 (お茶) をお供えします。(煮物・そうめんなどの精進料理)



仏壇の前に、経机や木製棚などを置き、その上に真菰を敷いて、「精霊棚」をつくります。

精霊棚に、お位牌、ローソク立、香炉、リンを置き、お花、季節の野菜や果物、お水、煮物やソウメンなどの精進料理、故人の生前好物などをお供えします。精霊棚の両脇には、絵柄の入った盆提灯を飾ります。飾るスペースがないときは片側一つだけの場合もあります。

60×45 (cm) ¥1,180



ハスの葉の上に、季節の野菜や果物などを盛ってお供えします。

かぼちゃ、とうもろこし、トマト、キュウリ、ナスなど、季節の野菜や果物をハスの葉の上に盛ってお供えします。お盆特有のお供えとして、ハスの葉の上にサイの目に刻んだナスやキュウリ、洗米などを盛り、ほおずきなどを添えてお供えすることもあります。

¥500



キュウリとナスに、割箸で4本足を付け、故人の霊やご先祖様が乗る「馬 (キュウリ) と牛 (ナス)」に見立てたものをお飾りします。

迎えるときは「足の速い馬で少しでも早く家に来てもらうよう」、送るときは、「名残惜しいので足の遅い牛でゆっくり帰ってもらうよう」という意味が込められています。

¥1,050

### ◆12日夕刻 (13日朝) の迎え火

家の門口や玄関で素焼の焙烙皿にガラ (麻木・たいまつ) を折って積み重ね、火をつけて燃やしその場で合掌します。これを迎え火といい、オガラをもやしたその煙に乗って先祖の精霊が戻って来るのを迎えます。

### ◆15日夕刻 (16日朝) の送り火

お盆明けには、家に迎えた精霊の足元を照らし、気を付けて帰ってもらうように送り火を焚きます。

¥800



おがら ¥300

(株) 八光堂仏具店

※商品価格は全て税込